

# 「井田町町内会」町名の由来

## ～根源は昭和初期の大工事～

私たちの井田(せいいでん)町町内会は下伊福上町の石井中学校以東と下伊福1丁目の北半分の範囲です。

広辞苑で「井田(せいいでん)」を引くと『夏・殿・周3代に施行されたと伝えられる田制。開墾した土地を井字形に区画し、分配したものと思われる。「孟子」によれば、周では9等分した土地の中央の1田を公田とし、周囲の8田を8家に分け、8家共同して公田を耕し、その収穫を租とした。井田法』とあります。これは紀元前8世紀に中国で実施された農租税法のようです。

日本では1670年頃、岡山藩主池田光政が津田永忠に命じ、和気郡友延村(閑谷学校領)を開墾、上井(かみい)地9町7畝と下井(しもい)地9町3反の井田2区画を設けました(池田家履歴略記より)。

これが唯一、日本で実施された井田法のようです。

…岡山後楽園の「沢の池」東隣にある「井田(せいいでん)」は  
このミニチュアです。

さて 私たちの井田町名の由来はどこからきたのでしょうか

昭和6年から12年にかけて都市計画法に基づき「三門～原島道(現国道180号)」が整地されたのが起源のようです。

整地前は車が通れるような道路は無く、現 国道180号北側にリヤカーがやつと通れる1m幅程の農道と農業水路が東西方向にありましたが、これより南は一面田畠(たんぼ)とあぜ道でした。

そこに前述の三門～原島道の22m幅幹道計画が持ち上がり、これに農地所有の地主が整地組合(組合長 片山忠次ほか 組合員15人)を結成し、行政の計画に道路用地に加え、南側の農業用地の地割整地まで協力しました。

その広さは東西約480間、南北110間余地と記録されており、現在地に置き換えると東西は富町1丁目 鈴木石材施工店西側南北道～三門駅西側南北道間と南北は石井中学校南側東西道～国道180号少し北(約20mほど北側まで)間に囲まれた範囲に相当すると考えられます。

当時は一面が農地で吉備線三門駅(明治37年開業)から石井小学校が障害物なく見えたそうです。

整地組合員は地割・道路用地など大胆に実行するため、自分の土地を提供 或は組合員間で農地を差し替えるなど大変な計画だったようです。

画期的なこの建設工事の計画・造成にあたり、整地組合員は「和気郡友延村の井田造成」を十分に調査、その結果に基づき計画、農地を地割・区画整地したようです。

それは約 5m の道路(現道路位置・幅と同じ)を井田(せいでん)のように平行で等間隔に整然と配置したのです。

整地当時の住居表示は「巖井」で、非常に広範囲域でした。

建設工事が竣工した時、整地組合が地割・整地したこの地区の業績をたたえて、「巖井」の中の特別地区に指定、「巖井井田町」としたようです。

国道北側にその竣工記念碑(右写真)が建っています。  
記念碑裏面に「整理後 町名 巖井井田町一、二、三丁目と改称」と刻み込まれ、後世にその名を残しています。

なお 巖井井田町一、二、三丁目は住居表示が下伊福(一部富町)に変わりましたが、地番として残っています。

…別冊「井田町のルーツ」の 5/6 頁 ブルーマップ (岡山地方法務局 閲覧資料より)

に地番 巖井井田町一、二、三丁目を掲載していますので参考ください…



昭和 40 年まで巖井地区内の町内会に「下伊福町内会」がありましたが、昭和 41 年に 4 分割され、「下伊福東町町内会」「下伊福本町町内会」「下伊福西町町内会」と「井田町町内会」に分けられました。

「井田町町内会」は地理的には他の下伊福 3 町町内会の北側にあり、「巖井井田町の中央部 (二丁目と三丁目の東部)」に位置していることから“巖井”をとり「井田町」としたようです。

昭和初期に整地組合が築いた「巖井井田町一丁目、二丁目、三丁目」の町名。その名残として名付けられた「井田町町内会」の町名。

今後、「井田町町内会」が続く限り、その由来を次世代に伝承して行くことになります。

(一部修正) 2010. 3. 22  
2006. 10. 28  
文責 立川 佳久

### <写真などで当時を推測 説明>

次ページに「巖井井田町一・二・三丁目配置(昭和 22 年撮影 航空写真)」と「同左写真に石井中学校と井田町町内会範囲を表現」 および 備前市穂浪友延新田の

江戸期「井田(せいでん)の絵図」と現在の「井田(いた)地区(航空写真)」を表し、以下に対比して 推測説明します

◎ 左上は昭和 22 年秋米国軍撮影の航空写真(国神社様提供)です

三門～原島道(現国道 180 号)が昭和 12 年に竣工して 10 年経過した  
終戦後の巖井井田町一丁目、二丁目、三丁目の姿です  
農地に民家がかなり建てられていることが判ります

◎ 左下は同上写真に石井中学校と井田町町内会範囲を表現しています

昭和 22 年 4 月に新生石井中学校開校、左上写真に初期校舎が写り、  
グランド造成中で道路が消えかけている状態が見えます  
当時の北門および国道 180 号～北門間の道路は現在無くなっています

○ 右上は穂浪友延新田に造成した「井田の絵図」です(池田家履歴略記より)

上井(かみい)が北(山側)、下井(しもい)が南(海側)に配置されています

○ 右下は平成 13～14 年頃の井田(いた)地区 航空写真です

(備前市歴史民俗資料館平成 14 年紀要より)

井田遺構地および周辺に民家がかなり建てられています

都市計画「三門～原島道整備」に協力した整地組合は穂浪友延新田「井田(せいでん)」を調査し、農地の地割計画に反映したと聞きました  
上記資料から 地割された状況を以下に推測します

**推測：1**…巖井井田町二丁目・三丁目 と 井田(せいでん) 上井(かみい)

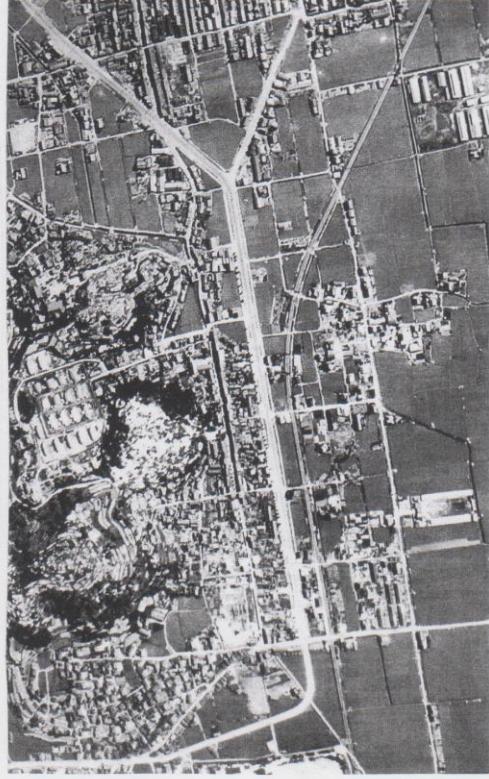
穂浪友延新田 井田 上井に似た長方形の巖井井田町二丁目(井田 1 区画相当)、  
三丁目(井田 1 区画相当)が 2 区画連続配置している状態に見えます  
即ち、東西は等間隔に 3 分割 × 2 区画 = 6 分割になっています  
また 南北は吉備線が斜めに横切っているのをなんとか 3 分割しようと努力  
している状態が伺えます

**推測：2**…巖井井田町一丁目 と 井田(せいでん) 下井(しもい)

巖井井田町一丁目は井田下井に似せた正方形にしようと試みている様子が  
伺えます

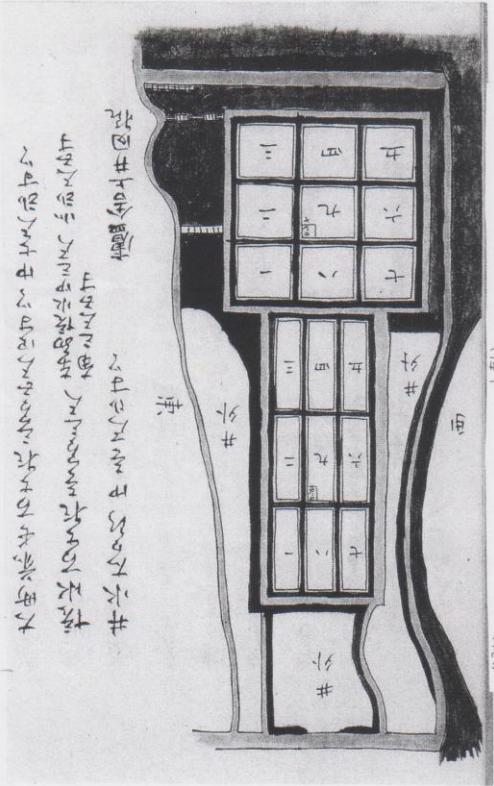
北東に傾斜配置している三門～原島道およびこの幹道から南東に傾斜配  
置している幅広の枝道(岡山駅西口・石井小学校への接続道)が地割の障害となる  
中で、苦心の地割・造成と見受けられます

終戦後(昭和22年)  
「巖井井田町一丁目・二丁目・三丁目の写真



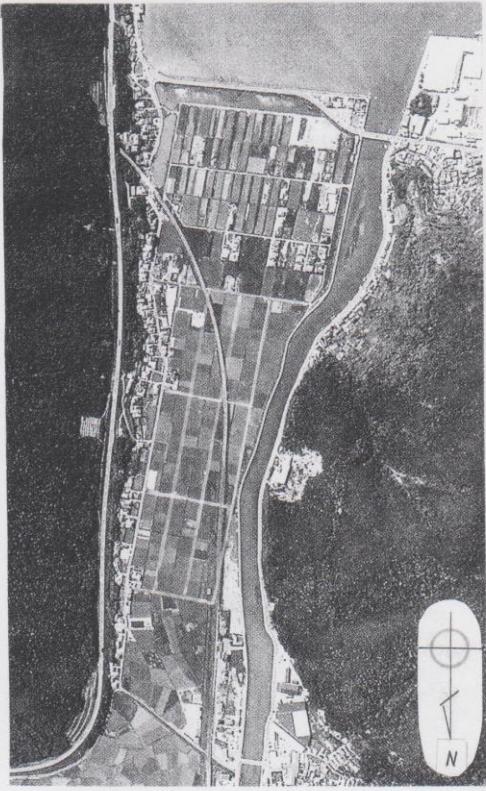
昭和22年秋(9~10月頃)米国軍撮影(国神社蔵提供)

井田(せいいでん)の絵図—池田家屋敷略記より—



上井(北側の井田のこと) 9町7畝と 下井(南側の井田のこと) 9町3反

現井田地区の全景写真—「井田(せいいでん)」備前市歴史民俗資料館平成14年度紀要より—



西側は伊里川が海に流れ、東の道路越しに井田神社を配し、北側に井田碑(碑文 山田 万谷)がある

3/3



やまだほづくく  
西側に井田碑(碑文 山田 万谷)がある



# 井田町の由来

私たちの町内会は井田（せいでん）町内会といいます。現在の下伊福上町の石井中学校以東と下伊福1丁目北半分です。広辞苑で「井田」を引くと「夏・殿・周3代に施行されたと伝えられる田制。開墾した土地を井字形に区画し、分配したものと思われる。孟子によれば、周では9等分した土地の中の中央の1田を公田とし、周囲の8田を8家に分け、8家共同して公田を耕し、その収穫を租とした。井田法」とあります。紀元前8世紀に中国で実施された畠租税法のようです。

日本では1670年頃、岡山藩主池田光政が津田永忠に命じ、和気郡延友村（今谷学校領）を開墾、9町7畝と9町33反の井田2区画を設けました（池田家履歴略記）。これが日本における井田法実施の唯一のものです。

さて私たちの井田町名のルーツはどこからきたのでしょうか。

昭和6年から12年にかけて都市計画法に基づき、「三門」原島道（現在の国道180号）が整備されました。整備前は現在の国道北側に1メートル幅程の

【備考】1.上の記事は山陽新聞マイタウン岡山(岡北版)2006年(平成18年)11月号に掲載されました。

このマツタケが山崎(西原)の手で、2005年1月25日付で、『山陽新聞』に掲載されました。

3. 記事中の※印：本掲載後、法務局のブルーマップ(地番表示)において、巣井田町の東端はバス停下伊福一丁目東からここに訂正します。